

80歳になっても20本以上の歯 8020運動の表彰で10名が受賞

12月11日、80歳で20本以上の歯がある方を表彰する「8020運動」の表彰式が行われ、10名が受賞。20本以上の歯があれば、食生活にほぼ満足することができると言われていています。受賞者は以下のとおりです。

受賞者10名（敬称略）

福山 博二（昇陽）	中島 弘己（鷺戸野）
川路 スミ子（猪鹿倉）	前之園 良輝（東中郡）
鶴田 ヨリ子（中村）	厚ヶ瀬 エミ子（厚ヶ瀬）
小園 一利（上柴立）	小路 幸一（早瀬）
中迫 英信（中園）	鳥淵 優子（鳥淵）



古くから無病息災や五穀豊穡を祈り奉納されてきた旗山神舞。鳥居の建て直しや秋の大祭の際などでも披露されていました。



多力鬼神や四人鬼神など8つの舞を披露 16年ぶりに旗山神社で神舞を奉納

11月26日、旗山神社で作物の収穫に感謝する新嘗祭にいなめまいが行われ、約300年前から伝わる神舞が16年ぶりに奉納されました。池田小学校の児童や教職員、旗山神舞保存会が、多力鬼神や四人鬼神舞など8つの舞を披露。力強く迫力のある神舞が披露されると、地域内外から訪れた300名近い観客から盛大な拍手が送られました。



タップダンサーの木場貴丸さんが授業 夢を持ち、続ける大切さを伝える

11月30日に大根占小学校でキャリア教育の一環としてタップダンサーの木場貴丸さんが授業を行いました。木場さんの講演やビンの王冠で作った手作りのタップシューズを履いて一緒に踊る体験などが行われ、6年生の27人が参加。東郷鷹大くんは「タップダンスは難しかったけど、足で色んな音が出せて楽しかった」と答えました。

山や森などの未舗装路を走るトレイルラン。今回、花瀬公園石畳をスタートして平家の落人伝説の残る荒西山方面へ向かい、天狗岩までを往復するコースに変更されました。



錦江町でんしろうトレイル 照葉樹の森を駆け抜ける

照葉樹の森を走る特設コースを舞台にタイムを競う第10回錦江町でんしろうトレイルが11月26日に開催されました。町内外から75名が出場し、23.5kmを駆け抜ける過酷なレースを全員が完走。前夜祭での郷土料理、レース中のけせん団子やまるぼうろなど特産品のふるまいも行われ、参加者は錦江町の自然や食を満喫していました。

自分たちで育てたサツマイモを使って 郷土料理の「がね」作りに挑戦

12月14日、池田小学校で児童が育てたサツマイモを使って郷土料理のがねとスイートポテト作りを行いました。5、6年生の6名が食生活改善推進委員の宮下和代さんと大園保子さんから教わりながら挑戦。5年生の大園菜乃歌さんは「自分たちが育てたサツマイモを美味しく料理できて嬉しかった」と笑顔で話しました。



農業と食の大切さを学ぶ総合的な学習の一環として始まった取り組みで、11月28日は1から4年生も料理に挑戦しました。

戦後から78年、思いを馳せ冥福を祈る 戦没者・殉職者合同追悼式を開催

12月1日、総合交流センターで行われた「戦没者・殉職者合同追悼式」に42名が参列し、黙とうを捧げて亡くなられた方々への冥福を祈りました。遺族会の久保幸雄会長は「尊い命と苦難の歴史の上に築かれた平和を引き継ぐことが使命」と追悼の言葉を述べ、遺族や関係者が献花台に菊の花を手向け追悼しました。



戦争が終わり今年で78年。今の平和な暮らしが、多くの犠牲の上に築かれていることを後世に伝えていく必要があります。

田代中の野口美羽みうさんは「畜産について知ることができた。将来は町の食材を美味しく調理する料理人を目指す」と話しました。



錦江町の中学3年生41名が畜産業を学ぶ 牛の見分け方や安全管理など学習

町の基幹産業である畜産業について理解を深めてもらおうと、5年前から始まった「畜産業を学ぶ会」が12月8日に開催されました。牛の見分け方や安全管理についての学習、子牛への「耳標」取り付け体験が行われ、錦江中と田代中の3年生41名が参加。バーベキューも行われ、農家や関係者との交流が図られました。